

研究所だより

編集・発行
 千葉県長生地方教育研究所
 茂原市東郷2300-1
 TEL 0475 (24) 9721・FAX 0475 (23) 4820
 H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>
 メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp



「千葉県教育の現状と課題について」

千葉県教育庁東上総教育事務所
 所 長 鉄 井 修 一

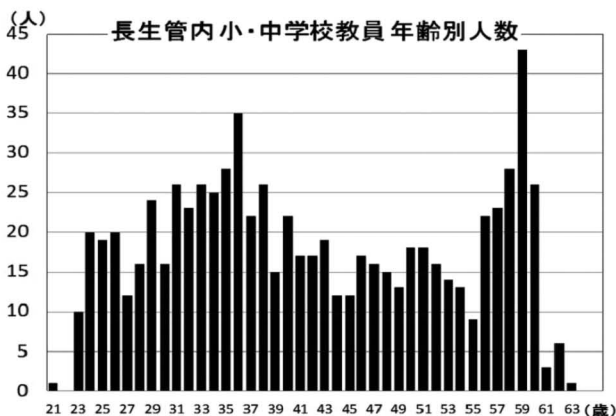
1 はじめに

この4月に教育庁生涯学習課社会教育振興室から、東上総教育事務所長に就任しました。どうぞよろしくお願いたします。

東上総教育事務所は、「すべては子どもたちのために」という運営方針の下、教育事務所の役割を「学校・家庭・地域の応援団」と位置付け4 S E C（スマイルを忘れずにスピード感をもって、市町村（組合）教育委員会並びに学校に対し心を込めてサービス、サポートを行います。教育のエキスパートとしての責任感を持ち、常にコンプライアンスを重視し、職務にあたります。）をスローガンに掲げ、取組を進めてまいります。どうぞ御理解、御協力をお願いいたします。

2 若手教員の人材育成について

さて、長生管内の小中学校の教員（校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、行政出向者）の年齢分布図を下に示しました。横軸が年齢、縦軸が人数です。



グラフからは、56歳以上の人数が大変多いことが読み取れます。つまり、今後5年間にベテラン層が大量に退職し、それと同等の新規採用者を新たに任用する必要があることから、現在より各学校に勤務する若手教員の割合が増していきます。この傾向は、県内他地域でも共通しており、ここから考えられる課題は3点あります。

- (1) ベテラン層の教育実践の継承
 これまで学校を支えてきたベテラン層の先生方の教育技術を若い世代がどのように受け継ぎ、学校の教育力低下を防ぐのか。
- (2) 学校のリーダーや管理職候補者の育成
 30歳代半ばから40歳代半ばの中堅層が少ない中で、学校の核となり、さらには管理職候補となる人材をいかに育成するのか。

(3) 若手教員の力量の向上

新規採用者が増える中で、教員としての資質や能力をどのように高めるのか。

これらの課題に対し、まずは、若手教員一人ひとりの努力に期待します。現在、担当している日々の職務に誠実に向き合いながら、その先にある主任や管理職の姿を意識し、力量向上に努めてほしいと思います。

また、各学校においては、教育実践の継承とチーム学校を意識した組織的・計画的な取組が求められます。市町村教育委員会や長生地方教育研究所においても、様々な形で人材育成を進めていただいているところですが、県教委や教育事務所でも、各種研修の機会を用意しています。事務所管内では「スクールリーダー養成講座」「学力向上交流会」などを実施しています。

東上総管内の学校、市町村教育委員会、教育事務所が思いを1つにし、総がかりで人材育成に取り組み、児童生徒の「希望の登校・満足の下校」につなげていきましょう。

3 学校における働き方改革について

千葉県教育委員会は本年3月に「学校における働き方改革推進プラン」を改定しました。同プランに掲載されている昨年11月に実施された県内調査の結果によれば、東上総管内教職員の平日の在校等時間は、小学校で5分、中学校で4分、県全体の平均より長く、各学校並びに各教職員においては、さらなる業務改善が求められます。

同プランの目標は、業務量の適切な管理等に係る取組を推進し、原則として、条例等で定める勤務時間を超える在校等時間が1か月当たり45時間、1年当たり360時間を超えないようにするというものであり、「勤務時間を意識して勤務できている」教職員の割合を令和4年度末までに、また、「子供と向き合う時間を確保できている」教職員の割合を令和5年度末までに、それぞれ100%とすることを掲げています。

同プランでは、働き方改革に関する取組として教育委員会に23項目、学校に25項目の具体例を示しています。学校の取組として示されているものをいくつかあげてみます。

【取組3】教職員は、1か月当たり正規の勤務時間を45時間超えて在籍することがないように、1日当たりの在校等時間及び週休日に業務に従事する時間を調整する。

【取組5】校長は、新たな業務を始める際には、スクラップ&ビルドの観点（または、スクラップの観点）から、総業務量が増加しないよう留意する。

【取組15】教職員は、週休日である土曜日・日曜日に従事する場合は、必ずどちらか一方とし、連続して業務に従事しないようにする。

是非、このプランを千葉県教育委員会のHPからダウンロードの上、参考にし、日々業務改善を意識した働き方を個人や組織で工夫していきましょう。



授業で活用するChromebook

千葉工業大学

准教授 須田 宇宙

1 はじめに

文部科学省のGIGAスクール構想を受けて、全国の小中学校で1人1台の情報端末の導入と高速インターネット回線の整備が進められている。

この構想は、今後、IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボットなどをはじめとする技術革新の進展が予測されていることが背景となっている。これらはSociety5.0と言われる「狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く5番目の社会」の実現に欠かせない技術とされている。

本稿ではGIGAスクール構想の概要とChromebookの活用方法について述べる。

2 GIGAスクール構想

2.1 社会と教育の変化

OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development: 経済協力開発機構) の調査によると、学校の授業におけるデジタル機器の利用時間の項目において、日本はOECD加盟国の中で最下位であった。同様に学校外でのICT利用学習(コンピュータを使って宿題をする、学校の勉強のためにネット上のサイトを見る)などの項目も低い水準であった。

同調査によると、現状では日本の生徒の学習到達度(読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー)は高いレベルを維持している。しかし、他国でコンピュータを利用した教育の導入が進むことにより、国際的な水準が向上することが予想される。

また、Society5.0が到来すると、現在の仕事の半数近くが自動化されることや、将来の職業は現在存在していないものとなることが予測されている。

このような社会の大きな変化に対して、文部科学省は「変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の造り手となるための力を子供たちに育む学校教育の実現」を目指している。そのためのポイントとしている事項が『情報活用能力を、言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づける』ことと『学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実』である。

2.2 情報活用能力

文部科学省では情報活用能力を「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な力」とし、以下の3つから構成されるものとしている。

- 情報活用の実践力: ICTの基本的な操作、情報の収集・整理・発信
- 情報の科学的な理解: プログラミングを通じたコンピュータの仕組みの理解
- 情報社会に参画する態度: 情報発信による他人や社会への影響、危険回避などの情報モラル

このような場面を実現するためには、情報端末の導入と高速インターネット回線の整備が必要となる。そのた

めのハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することがGIGAスクール構想である。

3 Chromebookの特徴

GIGAスクールの端末として最も高いシェアを獲得しているのがChromebookである。Chromebookは、Google Chrome OSを搭載したノートパソコンのことであり、ハード面では①OSやアプリケーションソフトウェアの動作に十分なCPUやメモリを搭載していること、②キーボードが搭載されている上タッチ操作やペンなどにも対応していること、③児童が安全に利用できるように耐衝撃性や防塵に配慮されたモデルが多いことが利点となっている。ソフト面では①シンプルで堅牢なOSであること、②多彩なクラウドサービス(メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ビデオ会議など)と連携していること、③管理者が端末を一括遠隔管理可能である他、ユーザ単位/端末単位での管理も可能であることなどが利点となっている。

4 情報活用の実践力の涵養の一例

「情報収集や発表、話し合い、意見の整理などはICTがなくてもできるので、わざわざICTを使わなくても良いだろう」という意見を持つ方もいるだろう。筆者の考えは、半分はYESで半分はNOである。YESの部分はICTの有無に依らず必要とされることであり、主体的に資料を収集・整理・分析し、対話によりお互いの主張を深く理解することなどである。

NOの部分は、ICTを利用することで、質・量ともに優れた学習が可能になる点である。例えば、これまでなら大量の資料を収集・分析しようとするのと質を下げざるを得ない局面でも、ICTを利用することで質を保ったまま量を増やすことができる。大量のデータから多面的な分析が可能になることで、優れた主張が可能になる。また、必要に応じて専門家との連携が可能になることや、遠隔地の子供同士で意見を交換することで多様な考えに触れる機会を与えることができる。

具体的には、Chromebookを利用し、その上でWebブラウザ「Chrome」で情報を収集し、表計算ツール「スプレッドシート」で情報を整理・分析し、プレゼンテーションツール「プレゼンテーション」でスライドを作成・提示し、遠隔地の専門家や子供同士でビデオ会議ツール「meet」でディスカッションを行うことなどが実現できる。

5 おわりに

本稿ではGIGAスクール構想の概要とChromebookの活用方法について述べた。情報活用の実践力のみならず、情報の科学的な理解や情報社会に参画する態度を学び、Society5.0の実現に寄与できる人材の育成に繋がっていくことを望む。

長生郡・茂原市小・中学校「研究主題と研究仮説等」

長生郡・茂原市小中学校の「研究主題と研究仮説等」について紹介いたします。各学校の研究に役立てていただければと思います。

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
東郷小	人間性豊かな児童の育成 ～生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる児童の育成を目指して～	1 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら思考し判断する一連の過程を大切に指導の工夫を行えば、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる児童を育成することができるであろう。 2 児童の実態に寄り添いながら、音楽的体験の積み重ねを多くし、その中で個に応じた指導の工夫を行えば、音楽のよさや楽しさを感じ、音楽的な資質・能力を高めることができるだろう。	音楽科
豊田小	自己の生き方を見つめ、主体的に判断し、よりよく生きる児童の育成 ～ICTを活用し、自分の考えを広げ、思考を深める道徳の授業づくりを目指して～	1 児童の思考を揺さぶる学習課題や発問を工夫することで、主体的に考え、自己の生き方について見つめ直し、考えを深めることができるだろう。 2 学び合う学習活動を通して多面的・多角的に考えを深めることで、幅広い視野から判断し、よりよく生きるための思考力を養うことができるだろう。	特別の教科 道徳
茂原小	自ら考え判断し、表現できる児童の育成 ～読む力を育む国語科学習の在り方～	1 児童が主体的に取り組める学習過程を設定し言語活動を工夫すれば、目的意識をもって文章や言葉と関わり、読む力が高まるであろう。 2 児童の発達段階を踏まえた交流の仕方を提示し互いに学び合う場面を設ければ、自分の思いや考えを伝えたり、他者の考えを理解したりできるであろう。	国語科
西小	主体的に探究する児童を育てる学習指導の在り方 ～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善～	「見方・考え方」を働かせた授業展開を実践すれば、主体的に学びを探求し、思考し表現する力を高めることができるであろう。	国語科 算数科
五郷小	どの子にも「わかる」「できる」楽しさを味わわせる学習指導 ～ICTを効果的に活用するための授業実践の工夫～	ICTを効果的に活用し考えを広め深める手立てを工夫すれば、様々な場面において「わかる」「できる」楽しさを味わうことができるであろう。	算数科
鶴枝小	読解力を向上させる指導法について ～情報を的確に理解するために～	1 これからの時代に求められる「読解力」について理解を深める。 2 読解力を向上させるための具体的な指導法を見出す。あるいは発案する。 3 見出した指導法に従って、一定期間継続的に指導をする。 4 指導の効果を検討する。	各教科
萩原小	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり ～タブレット端末を活用した授業実践を通して～	1 新学習指導要領の主旨を理解した上で、学校として育成を目指す資質・能力を明らかにする。 2 タブレット端末を活用し、「主体的・対話的活動」から「深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、どのように学習意欲、思考力・表現力の向上を図るか。	全教科
中の島小	自ら考え、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成 ～思考力を育む指導法の工夫を中心に～	思考力を育む教師の働きかけを工夫すれば、数学的な見方、考え方を働かせ、主体的に問題解決に取り組むことができるであろう。	算数科
本納小	小中一貫教育における、本納中学校区4校の効果的な小中連携のあり方 ～9年間を見通した系統的な学習指導を目指して～	1 目指す子ども像の具現化に向けた系統的な学習指導の実践 2 児童が見通しをもって主体的に考え行動するための学習環境づくり	全教科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
新 治 小	自分の考えを持ち、分かりやすく伝えられる児童の育成 ～国語科における伝え合いと振り返りによる協働的な学びを通して～	1 言語活動の充実を図るための教材の提示の仕方を工夫すれば、自分の考えを持ち、進んで伝え合う態度が育つであろう。 2 本時の学びに視点を当てた振り返りを行えば、児童はどんな力が身に付いたかを理解し、それを活用しようとする新たな主体的な学びに繋がるであろう。	国 語 科
豊 岡 小	自ら学び考え、表現する児童の育成 ～算数科における「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業改善～	1 課題の提示の仕方を工夫すれば、学習課題が明確になり、解決の見通しが持てるようになるだろう。 2 具体物、図、言葉、数、式などを用いて考えたり説明し合ったりする活動を取り入れれば、自分の考えを表現することができるであろう。	算 数 科
東 部 小	思考力・表現力の育成を目指す授業づくり ～算数科の指導の工夫を通して～	児童の実態や学習のねらいに応じたノート指導を継続していけば、自らの考えを表現できるようになり、思考力・表現力が育つであろう。	算 数 科
二 宮 小	「わかる」楽しさ、「できる」喜びを味わえる授業づくり ～基礎・基本の定着を図る算数科指導を通して～	1 児童が興味・関心をもつことができる素材や教具を発達段階に応じて工夫すれば、「わかる」楽しさを味わうことができるだろう。 2 本時のめあてに関係する既習事項の振り返りや作業的・体験的な活動を取り入れて授業を展開すれば自立解決ができ、「できる」喜びを味わうことができるだろう。	算 数 科
東 浪 見 小	自ら考え、判断し、表現することのできる児童の育成 ～書く力をのばす国語科学習の在り方～	単元の目標を実現するために適した言語活動を明確に位置付け、指導と評価の計画を工夫すれば、児童が書く力を身に付けるであろう。	国 語 科
一 宮 小	仲間と高め合い、地域とつながり、作りだす喜びを実感する児童の育成 ～図画工作科における「もの・こと」、「人」との対話を通して～	1 児童が主体的に造形活動に取り組み、表現力を高める。(豊富な素材・材料との出会い、意欲が高まる導入、児童一人一人に適した場の設定、校内環境の整備、美術的な作品の掲示等) 2 児童が共に関わり合いながら、造形的な力を伸ばす。(よさやイメージを共有するためのミニ鑑賞会の実施、柔軟な学習過程や単元構成等) 3 児童が生活や社会と豊かに関わる態度を育む。(地域の特性をいかした活動、地域との連携、ゲストティーチャーによる出張授業等)	図画工作科
白 潟 小	自ら考え、表現できる子どもの育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、思考し、表現する力を高める指導の工夫～	自分の思いや考えを伝えたいような手立てを工夫すれば、お互いの思いや考えを交流することができるであろう。	全 領 域
南 白 亀 小	よく考え、自分の考えを表現できる児童の育成 ～主体的に学び、ICT活用場面を工夫した授業づくり～	1 学ぶことに興味や関心を持つことができるような課題設定の仕方や、学習意欲を高めるための課題提示の工夫を意図的に取り入れていくことで、粘り強く考える力がつくと共に、解決する喜びを味わうことができるだろう。 2 学習活動を自ら振り返り意味づけたり、身に付いた資質・能力を自覚できるような評価の工夫を取り入れたりとすることで、自ら課題を見つけ意欲的に学習する子が育つであろう。 3 タブレットなどの各種ICT機器を用いることで、興味関心をもった事柄を調べたり、図形や描画を使って資料を作成したりすることで、基本的なスキルを身につけ表現することができるであろう。また、Web会議ツールなどを活用することで、主体的に様々な人と関わるができるであろう。	全 教 科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
関 小	一人一人が輝き、「わかる」「できる」喜びを味わえる授業づくり ～思考力を高めるICTの活用を通して～	1 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る手立てや個に応じた支援方法を工夫していけば、「わかる」「できる」喜びを一人一人に味わわせることができるであろう。 2 ICTを活用し、学び合う場や比較検討場面を工夫すれば、自分の考えを基に他者と関わり合いながら、思考力を高めることができるであろう。	全 教 科
長 柄 小	基礎的・基本的な知識・技能を身に付けた児童の育成 ～できる・わかる「楽しさ」、伝わる「喜び」を実感できる算数科の授業を通して～	1 児童が主体的に活動できる素材や教具・ICT機器を工夫して取り入れたり、伝え合い・振り返る活動を意図的に設定したりすれば、学習意欲が高まるであろう。 2 本時のめあてにかかわる既習事項を振り返り問題解決に取り組めば、学習内容が分かり、基礎的・基本的な知識・技能が身に付くであろう。	算 数 科
日 吉 小	自己を見つめ、考え、共によりよく生きる子どもを育てる道徳教育 ～多面的・多角的に考え、深める道徳科の実践を通して～	1 教材の開発 ・資料の掲示の仕方や読み方の工夫 ・ワークシートや道徳ノートの活用 ・内容項目の可視化・操作化・言語化を目指した道徳ツールの活用 2 指導の工夫 ・共通体験の想起、活用 ・日常の児童理解や実態調査を踏まえた発問構成の工夫 ・板書の構造化 3 評価 ・ワークシートやノート記述による学習内容の蓄積 ・道徳アンケートによる児童の意識調査 4 他の教科や教育活動との関連 ・教科横断的な学習内容の工夫	特別の教科 道 徳
長 南 小	主体的・対話的に体育学習に取り組む児童の育成を目指して ～長南モデル「できる・わかる・かかわる」活動の実践を通して～	1 自分の課題にあった練習の場を設定し活用することで、わかる・できる力が高まり、運動を楽しむ児童を育成することができるだろう。 2 仲間・もの・場所とのかかわりを通して、対話的な体育活動をすることで、学び合う力が身に付き、運動を楽しむ児童を育成することができるだろう。	体 育 科
睦 沢 小	園小中一貫教育におけるコミュニケーション能力を育てる学習の在り方 ～国語科を中心とした系統的・教科横断的な指導を通して～	1 国語科の「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の指導を中心に、系統的・教科横断的な指導を行えば、友達の考えを理解し自分の考えを伝えられるであろう。 2 英語科の「話すこと・聞くこと」の指導の中で、簡単な語句や表現を用いた身近なコミュニケーション活動を行う場を設け、アイコンタクト、声量、ジェスチャーを大切にすれば自分の考えや気持ちを伝え合うことができるであろう。 3 総合的な学習の時間において、地域の大人と地域づくりの共同体験をする中で、他者に対する関心、愛着、信頼を強めることができれば、豊かな社会力を育むことができるであろう。 4 生活科を中心に、合科的・関連的な指導を行えば、総合的な学びから自覚的な学びへとつなげることができるであろう。	国 語 科 外 国 語 科 総 合 的 な 学 習 の 時 間 生 活 科
一 松 小	生きる力を支える確かな学力を身に付けた児童の育成 ～算数科におけるICTを活用した基礎的・基本的な内容の習得と活用を通して～	基礎的・基本的な内容の習得を図る手立てや学習したことを活用する場を、ICTを活用し、個に応じた方法を工夫すれば、児童の意欲を高め、確かな学力を身に付けることができるであろう。	算 数 科
八 積 小	主体的・対話的で深い学びに繋げるためのICTを活用した授業づくり ～ICTを効果的に活用した授業実践の工夫～	ICTを効果的に活用することで、子どもの学ぶ意欲が向上し、主体的・対話的で深い学びにつながるであろう。	全 教 科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
高根小	楽しみながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～外国語科・外国語活動の授業実践を通して～	1 単元ごとに付けたい力を明確にし、児童の興味・関心が持てるコミュニケーション場（目的、場面、状況）を設定すれば、進んで活動に取り組むことができるであろう。 2 日常の中で、外国語を使う場を設定すれば、外国語に慣れ親しむことができるであろう。	外国語科 外国語活動
東中	自ら学び、確かな学力を身につけた生徒の育成 ～指導と評価の一体化に向けた授業の改善～	「指導と評価の一体化」に向けて授業改善し、思考・判断・表現する場面を効果的に設定し、学ぶ楽しさを実感できるわかる授業を実践すれば、自ら学び、確かな学力を身につけた生徒を育成することができるであろう。	全教科 全領域
富士見中	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業のあり方 ～ICT機器の活用を通して～	1 動画や図版などを効果的に取り入れることで、生徒の学習意欲が高められるであろう。 2 リアルタイムで比較検討し、自分の考えや他の人の考えを共有することで、学習内容の理解を深められるであろう。 3 タブレット端末に導入されているドリルパークを活用し、学習の取組を容易にしたり、各自の学習状況に応じた取組をしたりすることで、基礎学力の向上につながるであろう。	全教科
茂原中	豊かな心と確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～授業力の向上を通して～	豊かな人間関係づくりを土台とした「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「授業づくりのグランドデザイン」を取り入れた学習の充実、授業力の向上を図ることで、自己実現に向けた将来の夢をもち、社会で生き抜くための判断力や人間関係調整力を育み、「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けた生徒を育成できるであろう。 1 「授業づくりのグランドデザイン」による学習の充実と授業力の向上 2 学習の充実のためのカリキュラム・マネジメント	全教科
南中	自ら学びに向かう生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業への取り組みを通して～	各教科の特性を生かし、学習指導要領の主旨を理解して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業実践を行うことで、自ら学ぶ生徒の育成につながるであろう。	全教科
本納中	未来に向けた学びの創造 ～新しい時代を生き抜くための資質・能力の向上に向けた取り組みを通して～	1 学習の過程で、自分の考えを持ち、表現することや伝え合ったり、話し合ったりする中で、実験・調査や思考・判断などの学習の場を意識し、学んだ知識・技能を生かした授業づくりを行えば、生徒はお互いにその考えを深め合うことができるであろう。 2 逆向き設計に基づいた授業改善により、さらに「学びの本質」に迫った授業を展開することにより、子どもの学びにより深く根ざすことができるであろう。 3 評価の在り方を工夫し、「学びの結果としての学習評価」(Evaluation)に加えて、「学習過程の中で学び手がどのように向上したかを見取り、支援する評価」(Assessment)を評価の視点に加えることで、より一人一人の生徒に寄り添ったカリキュラム・マネジメントを行うことができるであろう。 4 学びのユニバーサルデザイン化に向けた教育実践を行うことにより、生徒一人一人のニーズに合わせた教科指導や個別の支援が行えるであろう。	全教科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
早野中	主体的な判断力を養う道徳科を目指して ～他者との対話を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・展開時で効果的な教材の活用をすることで、生徒が興味・関心をもち、自ら学びたいという課題意識や課題追究への意欲を高めることができ、主体的に判断しようとする意識に結び付くであろう。 2 道徳的価値と自分自身を関連付けて考えさせるとともに、多様な意見と出会う他者との対話を工夫すれば、生徒が自ら納得できる考えを導き出すための、主体的に判断する力を身に付けることができるであろう。 3 確かな評価意識と具体的な評価方法を身に付けることで、生徒のより豊かな道徳性を育み、主体的な判断力の育成につながるであろう。 	道徳科
一宮中	夢を持ち、創造し、自らの力で切り拓き、お互いを認め合う生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 目標を持ち、計画を立て諸活動に取り組み、達成感や成就感を味わわせることにより、自らの力でものごとを切り拓く主体的な力を育成できるであろう。 2 オリパラ教育を推進し、教育活動を工夫することにより、夢をもって取り組む姿勢が育成できるであろう。 3 社会貢献プロジェクトやボランティア活動に参加、福祉について深く知ることにより、お互いを認め合う豊かな心を育成することができるであろう。 4 造形教育を推進し、アートに触れ、自分でつくることを通して、夢をもって創造する力を育成できるであろう。 	オリパラ 福祉 造形
白子中	自己実現に向け、自ら学び、思考し、表現できる生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習課題を明確にし、課題を解決する学びの場の工夫・改善をすれば、一人一人が考え、活動するようになり、主体的に学ぶ態度が育つであろう。 2 授業の振り返りをする場を工夫すれば、主体的に取り組み、それが深い学びとなり、思考力・表現力が高まるだろう。 	全教科
長柄中	学ぶ喜びを感じ、主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～指導法の工夫・改善を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の言葉で書く活動を工夫し、発表する場を充実させれば、思考力・表現力が高まるであろう。 2 魅力ある題材を精選し、教材・教具・資料の効果的な活用方法を工夫すれば、生徒は興味・関心をもち、学習意欲が向上するであろう。 3 学習を進める中で、既習事項を意図的に振り返らせ、繰り返し練習することで、基礎・基本が定着し、主体的に学習に取り組むようになるであろう。 	全教科
睦沢中	園小中一貫教育におけるコミュニケーション能力を育てる学習の在り方 ～国語科と英語科を中心とした系統的・教科横断的な指導を通して～	<ol style="list-style-type: none"> 1 国語科を中心として、目的や場面に応じた質問の仕方を工夫し、対話を充実させる言語活動を行えば、相手を尊重しつつ自分の意見をしっかりと言うことができるであろう。 2 英語科の授業を通して、簡単な語句や文を用いて自分の思いや考えを伝え合う言語活動を設定すれば、生徒はコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを体感し、相手の考えを理解し、自分の考えを伝えることができるであろう。 3 総合的な学習の時間を通して、地域を知り、地域について学び、地域の大人と接する中で町づくりや地域活性化につながる活動を行えば、社会における自分の責任を自覚し、人とうまくかかわる力が育つであろう。 	全教科 領域
長生中	「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を通して～	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めることにより、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力をバランスよく育み、知識の質を更に高め、「確かな学力」を身に付けた生徒を育成できるであろう。	全教科 領域
長南中	確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～「見通し」と「振り返り」活動に着目して～	生徒が見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることにより、主体的に学習する態度が育ち、確かな学力の獲得へとつながるだろう。	全教科

令和3年度長期研修生紹介



☆国語科☆
茂原市立豊田小学校 渡邊 紘志
<研究主題>
深い学びを実現するための国語科学習の在り方
～自らの考えを形成し、表現する賢治記念館づく
りを通して～



☆体育科☆
茂原市立五郷小学校 佐藤 章雄
<研究主題>
技能向上につながる対話学習の在り方
～子どもとつくるコミュニケーションデザインマ
ップの作成を通して～



☆外国語科☆
茂原市立東郷小学校 大多和 絵美
<研究主題>
自分で考え、英語で伝え合う力を育成する指導の
研究
～Small Talkの活用を通して～

令和2年度長期研修生研究発表会について

昨年度の長期研修生の研修成果を地域で共有することを一つの
目的として、研究発表会を行いました。多くの先生方にご参加い
ただき、活発な意見交流を通して、研究成果を広めたり、深めたり
することができました。ご協力ありがとうございました。

○期日 8月3日(火)午後2時
○場所 長生教育会館 大会議室

☆理科☆ 一宮町立一宮小学校 重村 英伸
<研究主題>

生命を尊重する態度を育成する理科教育
～「一人一飼育活動」を通して～

<研究の概要>

児童一人が動物を一匹飼う「一人一飼育活動」を通じた生命
と関わる体験が、生命を尊重する態度の根底にある「生命観」
の育成に有効であるかを調査した。児童は飼育を行う中で、生
命活動の不思議さや神秘さに驚いたり、飼育対象が成長するこ
とへの喜びを感じたりするなど、様々な感情を抱いた。その結
果、飼育活動を行っていない児童に比べて、「生命観」を構成
する主要概念の一つである「生命概念」に高まりがみられた。
このことから、「一人一飼育活動」は、児童が生命を尊重する
態度を身に付けるために有効である可能性が示唆された。

☆理科☆ 茂原市立本納中学校 齊藤 亮平
<研究主題>

主体的・対話的で深い学びを実践するための教材開発
～「動物の体のつくりと働き」における心臓モデルの開発～

<研究の概要>

中学校第2学年「動物の体のつくりと働き」の学習において、
生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、ホニウウ
類と両生類の心臓のモデル教材を開発し、研究協力校において
授業実践を行った。

これまで体験的な学習が難しかった「動物の体のつくりと働
き」の学習において、生徒の課題探究的な学習を可能にした結
果、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のそれぞ
れにおいて効果的な学習を可能にすることが示唆された。

☆外国語活動☆ 茂原市立東郷小学校 矢代 朋美
<研究主題>

絵本を用いた効果的な指導法
～児童が考えて、発話できる読み聞かせを用いた授業を通して～

<研究の概要>

中学年の外国語活動の授業において、小学校外国語活動教材
の学習と併せ、毎時間継続して絵本の読み聞かせを組み込んだ
実践を行った。単元の内容や児童の発達段階に合う絵本を選定
し、継続して読み聞かせを行うことで、絵本で使われた英語の
発話数の増加と内容理解への高まりにつながった。また、読み
聞かせ中に、絵本の内容や登場する単語について考える視点を
意図的に与えることで、名詞に加え、動詞や形容詞も発話でき
た。

これらのことから、絵本を外国語活動の学習に用いることは、
中学年の児童に有効であることがわかった。

研究所の紹介

所長 竹之内 達生 (一宮町立一宮中学校校長)



今年度、研究所長としてお世話になって
おります。研究所が起点となり、長生の教
育の発展並びに教育情報の提供ができるよ
う所員一同と共に精進してまいります。
よろしくお願いいたします。

主事 常世田 伸吾 (睦沢町立睦沢小学校)



研究紀要の寄贈、各種調査への回答など、
さまざまなご協力をいただきありがとうござ
います。
皆様にとって「訪れやすく、活用しやす
い研究所」を目指して、情報提供、資料の
検索や貸し出し、研修会の開催等、各種の
活動に取り組んでまいります。いつでもお
気軽にお立ち寄りください。

調査部

<研究主題>
働き方改革に関する調査



大塚 宏幸
(一宮町立東浪見小学校)
大島 梓
(茂原市立茂原中学校)
太田和紘子
(茂原市立東郷小学校)
御園 翼
(長南町立長南中学校)

働き方改革に対する長生郡市小・中学校や全国の取組を調
査して紹介します。今年度は、昨年度実施したアンケートを
集約し、紀要としてまとめます。

研修部

<研究主題>
教育課題の改善にむけた効果的な情報提供



鈴木 公則
(茂原市立本納中学校)
岡澤 尚樹
(長柄町立長柄中学校)
渡邊 幸久
(睦沢町立睦沢小学校)
鈴木 謙一
(白子町立白瀧小学校)

「研究所だより」を年3回発行し、教育実践や教育研究等
の参考となる資料を紹介します。また、研究紀要発表会や長
期研修生報告会などの研修会の運営を行っています。

情報部

<研究主題>
研究の深まりと校務の効率化を目指して



池田 進
(長生村立長生中学校)
森 好美
(長生村立八積小学校)
河野 勉
(茂原市立南中学校)
今村 賢司
(茂原市立茂原小学校)

現場の教育研究、実践に役立つ教育資料の作成と紹介をし
ます。また、各校の校内研究に関する資料を集め、研究所ホ
ームページにデータベース化して掲載します。